

## 20年度矢崎科学振興財団が決定 「研究助成金」受領者16人 「矢崎学術賞」受賞者2人

2021/03/11 交通毎日新聞 2ページ 843文字

矢崎科学技術振興記念財団（細川興一理事長）は4日、2020年度の「研究助成金」受領者16人、「矢崎学術賞」受賞者2人を決定した。

研究助成事業は1983年から科学技術の発展を目的として行っており、20年度も独創的で成果が科学技術の進歩に大きく貢献すると考えられる研究を対象に選考が行われた。研究助成は「新材料」「エネルギー」「情報」の各分野を対象領域に「一般研究助成（助成金200万円）」、原則35歳以下の若手研究者を対象とした「奨励研究助成（100万円）」、財団が特定したテーマにふさわしい研究を対象とする「特定研究助成（1千万円）」の3つの助成制度からなる。また、国際的な学会で論文や共同研究発表をする際の渡航費を支援する「国際交流援助」、過去に当財団から研究助成を受けた研究者の中から優れた業績を上げた研究者に与える「矢崎学術賞」も設けられている。

一般研究助成には79件の応募から、筑波大学数理物質系・所裕子教授の「高性能蓄熱酸化チタンの開発」はじめ5件、奨励研究助成は48件の応募から、岡山大学自然科学研究科・鈴木弘朗助教の「半導体原子層物質のプラズマを用いた低温・高速合成」はじめ10件を決定。特定研究助成は「高齢者・身障者への質の高い支援技術に関する研究」「革新的なモビリティ社会の創出を支える基盤技術に関する研究」という2つのテーマに9件の応募があり、東北大学多元物質科学研究所・本間格教授の有機電極材料を利用した高エネルギー密度・レアメタルフリー型リチウムイオン電池の開発」が選ばれた。

国際交流援助は、新型コロナウイルス感染拡大の影響による国際学会の中止・オンライン開催のため「該当者なし」となった。

矢崎学術賞は10件の応募から、功績賞に東京大学大学院工学系研究科の田中雅明教授、奨励賞に東京大学物性研究所量子物質研究グループの三輪真嗣准教授が決定した。

なお、4日に開催を予定していた研究助成金贈呈式は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を踏まえ、中止となった。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.